

第6回山口県地震・津波防災対策検討委員会の議事概要

1 日 時 令和7年12月26日(金) 14:00～16:00

2 場 所 山口県庁 本館棟4階 共用第3会議室

3 出席者 検討委員会委員(15名出席、1名欠席)

4 議 事

- ①地震動等、津波浸水想定結果について
- ②被害想定結果(建物・人的被害)速報について
- ③普及啓発資料(案)について
- ④今後のスケジュールについて

5 主な委員意見

- ①地震動等、津波浸水想定結果について

【地震動・液状化・急傾斜地予測】

- ・地震動の解析について、等価線形化法の適用範囲を超える箇所では安全側となる線形解析を採用しているが、建物の固有周期等への影響もあることから、その点に留意して結果を見る必要がある。
- ・前回調査と今回調査で震度階級が異なる場合でも、計測震度では大きな差がない場合があるため、計測震度も併せて示すなど、県民に変化の程度が分かるようにしていただきたい。
- ・今回の調査では、メッシュの細分化や断層モデルの設定等により、従来より大きな震度が算出される地域もあることから、その理由を住民に分かりやすく説明し、防災対策につなげていく必要がある。

【津波浸水想定】

- ・津波浸水想定図について、一見すると海岸から離れた場所に浸水域があるように見える箇所があるため、河川遡上、地形データの詳細化等によるものであることや、現時点で利用可能なデータを用いて想定していることを丁寧に説明していただきたい。
- ・今回モデル化した31河川以外の小規模な河川についても津波が遡上する可能性があるため、住民への周知に当たっては注意が必要である。
- ・津波浸水想定図について、標高の高い埋立地など浸水しない地域も含め、標高との関係が分かるよう示すことで、住民にとってより理解しやすい資料になるのではないか。

②被害想定結果（建物・人的被害）速報について

- ・周防灘断層帯地震において、防府市の死者数が他地域と比べて多くなっていることについて、断層との距離だけでなく、土地条件や建物条件等も含めて要因を精査していただきたい。
- ・お盆など人が多く集まる時期を想定した被害想定について、イベント時の群衆事故などは今回の算定に含まれていないことから、こうしたイベント特有の被害については、被害想定とは別に対策を検討する必要がある。
- ・建物被害について、「1棟未満」など確率的な算定結果に基づく表現は住民に分かりにくい可能性があるため、表現方法を工夫するとともに、被害率を併記するなど分かりやすい示し方を検討していただきたい。
- ・揺れ、土砂災害、津波等による全壊・半壊棟数の算定方法について、最終的な報告書で算定式や考え方が分かるようにしていただきたい。
- ・津波による死者数について、前回調査では県西部が多かったものが今回は県東部に多く見られることから、前回調査と今回調査で地域別の被害がどのように変化したのか確認していただきたい。

③普及啓発資料（案）について

- ・津波のアニメーションについて、海岸からの浸水だけでなく、津波が河川を遡上して周辺に広がっていく様子も示すことで、河川からの浸水リスクを住民に分かりやすく伝えられるのではないかと。
- ・津波のアニメーションについて、発災からの経過時間をより見やすく表示するなど、住民が津波の到達までの時間を直感的に理解できるよう工夫していただきたい。